(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-197877
(P2017-197877A)
(43)公開日　平成29年11月2日(2017.11.2)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A41D 13/00	(2006.01)	A41D	13/00	115	3B011
A41D 27/20	(2006.01)	A41D	27/20	B	3B035

審査請求 未請求　請求項の数 4　OL　（全 12 頁）

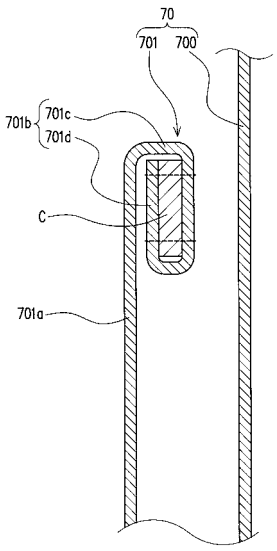
(21)出願番号　特願2016-89439(P2016-89439)
(22)出願日　平成28年4月27日(2016.4.27)

(71)出願人　000002439
株式会社シマノ
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地
(74)代理人　100074332
弁理士　藤本　昇
(74)代理人　100114432
弁理士　中谷　寛昭
(74)代理人　100138416
弁理士　北田　明
(72)発明者　邑本　修平
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地　株式会社シマノ内
(72)発明者　宮本　祐史
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地　株式会社シマノ内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】サイクルウエア

(57)【要約】
【課題】　走行中の風の抵抗を抑え、さらに、着心地を良くすることができるサイクルウエアを提供することを課題とする。
【解決手段】　本発明のサイクルウエアは、前身頃と、後身頃と、前記前身頃と該後身頃とに一体的に連続し且つ着用者の肩に対応させて配置される肩当部と、前記後身頃の下端部に縫い合わされるポケット部とを備え、前記後身頃は、着丈に対応する方向である着丈方向に沿って分割することで構成される一対の後身頃形成部を有し、前記着丈方向に延びる接合材が該一対の後身頃形成部のそれぞれに跨るようにして接合される。
【選択図】図５



【特許請求の範囲】
【請求項１】
前身頃と、後身頃と、前記前身頃と該後身頃とに一体的に連続し且つ着用者の肩に対応させて配置される肩当部と、前記後身頃の下端部に縫い合わされるポケット部とを備え、前記後身頃は、着丈に対応する方向である着丈方向に沿って分割することで構成される一対の後身頃形成部を有し、前記着丈方向に延びる接合材が該一対の後身頃形成部のそれぞれに跨るようにして接合されているサイクルウエア。
【請求項２】
前記接合材は、前記着丈方向における前記後身頃形成部の全長に亘って接合されている請求項１に記載のサイクルウエア。
【請求項３】
着用者の首回りに配置される襟部を備え、該襟部は、前記接合材の上端部と前記後身頃形成部とのそれぞれに縫い合わされ、前記ポケット部は、前記接合材の下端部と前記後身頃形成部とのそれぞれに縫い合わされている請求項１又は請求項２に記載のサイクルウエア。
【請求項４】
前記前身頃と前記後身頃との縫目は、着用者の脇下に対応させて配置される基端と、着用者の腰回りに対応させて配置される先端とを有し、該縫目の先端側は、該縫目の基端側よりも着用者の背面側に位置するように構成される請求項１乃至請求項３の何れか１項に記載のサイクルウエア。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、サイクリストが着用するサイクルウエアに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来から、自転車に乗るサイクリストの体の動きや、サイクリストの走行環境を考慮して構成されたサイクルウエアが提供されている。
【０００３】
かかるサイクルウエアには、着用者の胴体の前側を覆う前身頃と、着用者の胴体の後側を覆う後身頃と、着用者が腕を通す袖部であって、前身頃及び後身頃のそれぞれに縫い合わされる袖部とを有するものがある。
【０００４】
また、前記サイクルウエアでは、前身頃と、後身頃と、袖部との縫目である第一シームラインが着用者の僧帽筋の上部と着用者の三角筋との間を通過するように構成されている。
【０００５】
サイクリストは、高速走行を行う際に、腰を曲げて上半身を前方に大きく倒した状態で腕を前方（腹側）に出す前傾姿勢をとることがある。この場合、サイクリストの僧帽筋と三角筋とがそれぞれ大きく伸長するが、前記サイクルウエアでは、伸長し難い第一シームラインが僧帽筋や三角筋を避けた位置に配置されているため、前記サイクルウエア全体がサイクリストの体の動きに対応して伸長し易くなっている。
【０００６】
従って、前記サイクルウエアは、前傾姿勢をとったサイクリストにひきつり感や、突っ張り感を与え難くすることで着心地の良さを高めることができるとされている（例えば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００７】
【特許文献１】特開２０１３－７１４２号公報

【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００８】
ところで、サイクリストは、自転車での走行時に風の抵抗を受けることになるが、前記サイクルウエアでは、前身頃と後身頃とがサイクリストの肩に対応する位置で縫い合わされているため、前身頃と後身頃との縫目の凹凸によって風の抵抗が高まり易くなる。
【０００９】
また、サイクルウエアには、サイクリストの所持品（例えば、飲料や、食料等）を収容するためのポケット部が設けられることがあるが、この場合、該ポケット部が後身頃に縫い合わされるとともに着用者の腰の位置に配置されるように構成されるため、ポケット部に収容した所持品の重みで後身頃が伸長してしまう。
【００１０】
そのため、前記サイクルウエアは、依然としてサイクリストにひきつり感や、突っ張り感を与えてしまうことがある。
【００１１】
そこで、本発明は、斯かる実情に鑑み、走行中の風の抵抗を抑え、さらに、着心地を良くすることができるサイクルウエアを提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【００１２】
本発明のサイクルウエアは、前身頃と、後身頃と、前記前身頃と該後身頃とに一体的に連続し且つ着用者の肩に対応する位置に配置される肩当部と、前記後身頃の下端部に縫い合わされるポケット部とを備え、前記後身頃は、着丈に対応する方向である着丈方向に沿って分割することで構成される一対の後身頃形成部を有し、前記着丈方向に延びる接合材が該一対の後身頃形成部のそれぞれに跨るようにして接合されている。
【００１３】
前記サイクルウエアによれば、着用者の肩に対応する位置に配置される肩当部が前身頃と後身頃とに一体的に連続するように構成されるため、着用者の肩に対応する部分が平滑になっている。そのため、前記サイクルウエアは、自転車に乗って走行する着用者の肩に生じる風の抵抗を抑えることができる。
【００１４】
また、前記サイクルウエアでは、後身頃が着丈に対応する方向に沿って分割することで構成される一対の後身頃形成部を有し、前記着丈方向に延びる接合材が該一対の後身頃形成部のそれぞれに跨るようにして接合されているため、前記着丈方向における後身頃の剛性が高まる。
【００１５】
従って、前記サイクルウエアでは、ポケット部に収容された着用者の所持品の重みによる後身頃の伸長が抑えられるため、着用者が体を引っ張られていると感じ難くなる。
【００１６】
本発明のサイクルウエアにおいて、前記接合材は、前記着丈方向における前記後身頃形成部の全長に亘って接合されていてもよい。
【００１７】
かかる構成によれば、前記後身頃形成部の剛性が前記着丈方向における全長に亘って高まるため、ポケット部に収容された着用者の所持品の重みによる後身頃の伸長を抑え易くすることができる。
【００１８】
そして、本発明のサイクルウエアにおいて、着用者の首回りに配置される襟部を備え、該襟部は、前記接合材の上端部と前記後身頃形成部とのそれぞれに縫い合わされ、前記ポケット部は、前記接合材の下端部と前記後身頃形成部とのそれぞれに縫い合わされてもよい。
【００１９】

かかる構成によれば、襟部と後身頃形成部と接合材の上端部とが互いに縫い合わされるとともに、ポケット部と後身頃形成部と接合材の下端部とが互いに縫い合わされるため、後身頃では、着丈方向における両端部（上端部と下端部）の剛性が着丈方向における中央部の剛性よりも高まる。

【００２０】

そのため、前記サイクルウエアでは、ポケット部に収容された着用者の所持品の重みによる後身頃全体の伸長を抑えつつ、着用者の腰を曲げて上半身を前方に大きく倒す動作を妨げ難くすることができる。

【００２１】

さらに、本発明のサイクルウエアにおいて、前記前身頃と前記後身頃との縫目は、着用者の脇下に対応する位置に配置される基端と、着用者の腰回りに対応する位置に配置される先端とを有し、該縫目の先端側は、該縫目の基端側よりも着用者の背面側に位置するように構成されていてもよい。

【００２２】

かかる構成によれば、前身頃と後身頃との縫目が自転車での走行中に風が当たり難い位置に配置されるため、風の抵抗が生じ難くなる。

【発明の効果】

【００２３】

以上のように、本発明のサイクルウエアによれば、走行中の風の抵抗を抑え、さらに、着心地を良くすることができるという優れた効果を奏し得る。

【図面の簡単な説明】

【００２４】

【図１】図１は、本発明の一実施形態に係るサイクルウエアの正面図である。

【図２】図２は、同実施形態に係るサイクルウエアの背面図である。

【図３】図３は、同実施形態に係るサイクルウエアのポケット部の拡大図である。

【図４】図４は、同実施形態に係るサイクルウエアの概略断面図であって、図２のＩＶ－ＩＶ線における概略断面図である。

【図５】図５は、同実施形態に係るサイクルウエアの概略断面図であって、図３のＶ－Ｖ線における概略断面図である。

【図６】図６は、同実施形態に係るサイクルウエアの説明図であって、着用者が自転車に乗っている状態での説明図である。

【図７】図７は、同実施形態に係るサイクルウエアの説明図であって、ポケット部に所持品を収容している状態の説明図である。

【図８】図８は、本発明の他の実施形態に係るサイクルウエアの背面図である。

【発明を実施するための形態】

【００２５】

サイクルウエアは、図１及び図２に示すように、前身頃２と、後身頃３と、前記前身頃２と該後身頃３とに一体的に連続し且つ着用者の肩に対応する位置に配置される一対の肩当部４と、着用者の首周りに配置される襟部５と、着用者が腕を通すための袖部６と、前記後身頃３の下端部に縫い合わされるポケット部７とを備えている。

【００２６】

前身頃２は、図１に示すように、身幅に対応する方向（以下、身幅方向という）で分割される一対の前身頃形成部２０を有する。そして、前身頃形成部２０は、前面胴当部２００と、前記身幅方向における該前面胴当部２００の両端にそれぞれ連続する一対の側方胴当部２０１とを有する（図２参照）。

【００２７】

前面胴当部２００は、着用者の前面に対応する位置に配置される開閉端２００ａであって、着丈に対応する方向（以下、着丈方向という）に沿って延びる開閉端２００ａを有する。

【００２８】

なお、一対の前身頃形成部２０では、前面胴当部２００の開閉端２００ａのそれぞれにスライドファスナーＦが取り付けられている。そのため、一対の前身頃形成部２０では、スライドファスナーＦによって、前面胴当部２００の開閉端２００ａ同士を繋ぎ止めた状態にできるように構成されている。

【００２９】

また、前面胴当部２００の前記着丈方向における上端部には、襟部５が縫い合わされている。

【００３０】

側方胴当部２０１は、図２に示すように、前面胴当部２００から着用者の脇下を通って背中側に延びるように形成されている。側方胴当部２０１の先端部には、後身頃３及びポケット部７が縫い合わされている。

【００３１】

さらに、本実施形態では、前身頃２の側方胴当部２０１と、後身頃３及びポケット部７との縫目（以下、脇下縫合線という）Ｌ１が、着用者の脇下に対応する位置に配置される基端と、着用者の腰回りに対応する位置に配置される先端とを有し、該脇下縫合線Ｌ１の先端側が該脇下縫合線Ｌ１の基端側よりも着用者の背面側に位置するように構成されている（図２参照）。

【００３２】

後身頃３は、図２に示すように、着丈に対応する方向である着丈方向に沿って分割することで構成される一対の後身頃形成部３０を有する。

【００３３】

後身頃形成部３０は、図４に示すように、前記着丈方向に沿って延びる接合代部３００と（図３参照）、襟部５が縫い合わされる上側縫代部３０１を前記着丈方向における上端部に有し、ポケット部７が縫い合わされる下側縫代部３０２を前記着丈方向における下端部に有する。

【００３４】

図３に示すように、一対の後身頃３の接合代部３００は、前記身幅方向で互いに隣接するように配置されている。また、後身頃３の接合代部３００は、前記身幅方向における後身頃３の中央部に位置する。

【００３５】

一対の後身頃形成部３０の接合代部３００のそれぞれには、帯状の接合材８が接合されている。すなわち、接合材８は、一対の後身頃形成部３０のそれぞれに跨るようにして接合されている。そのため、一対の後身頃形成部３０では、接合材８によって接合代部３００が補強され、これにより、該接合代部３００の剛性が他の部分の剛性よりも高められた状態になっている。

【００３６】

また、接合材８は、長手方向の全長に亘って幅が一定となるように構成されており、長手方向を前記着丈方向に対応させた状態で、前記着丈方向における一対の後身頃形成部３０のそれぞれの全長に亘って接合されている。なお、本実施形態における接合材８は、各後身頃３に対して熱溶着されている。

【００３７】

これに伴い、接合材８は、前記着丈方向における接合代部３００の全長に亘って接合されるとともに、上側縫代部３０１と、下側縫代部３０２とにも接合されている。そのため、接合材８の上端部は、上側縫代部３０１とともに襟部５に縫い合わされており、接合材８の下端部は、下側縫代部３０２とともにポケット部７（センターポケット７０）に縫い合わされている。

【００３８】

下側縫代部３０２のうちの前記身幅方向における中央部は、前記身幅方向に沿って延びている。そして、下側縫代部３０２のうちの前記身幅方向における両側端部は、中央部から前記身幅方向外方に延びるにつれて下方に向かうように傾斜している。

【００３９】
そのため、後身頃３とポケット部７との縫目である背面縫合線Ｌ３には、前記身幅方向に沿って延びる中央縫目線Ｌ３０と、該中央縫目線Ｌ３０から前記身幅方向外方に延びる一対の側方縫目線Ｌ３１とが含まれている。また、一対の側方縫目線Ｌ３１は、前記身幅方向における中央縫目線Ｌ３０の端部から脇下縫合線Ｌ１まで延びており、前記身幅方向外方側であるほど下方に向かうように傾斜している。
【００４０】
肩当部４は、図１及び図２に示すように、着用者の肩のそれぞれに対応させて一つずつ配置される。また、肩当部４は、着用者の肩の前側から肩の頂部を通って肩の後ろ側に至るように形成されており、着用者の肩幅と同一又は略同一の幅となるように構成されている。
【００４１】
より具体的に説明すると、肩当部４は、着用者の肩の前側に対応させて配置される前側肩当部４０と、着用者の肩の頂部に対応させて配置される肩当頂部４１と、着用者の肩の後ろ側に対応させて配置される後側肩当部４２とを有する。
【００４２】
そして、肩当部４では、前記身幅方向における内側の端部（以下、内端部という）に襟部５が縫い合わされている。そのため、本実施形態では、一対の肩当部４の内端部と、一対の前身頃形成部２０の上端部と、一対の後身頃形成部３０の上側縫代部３０１と、一対の肩当部４の内端部とが互いに連続して襟用の縫代（以下、襟用縫代部という）を構成している。
【００４３】
さらに、本実施形態では、肩当部４が前記身幅方向における外側の他端部（以下、外端部という）に袖部６が縫い合わされており、袖部６との縫目である袖部縫合線Ｌ２が着用者の肩周りに沿う方向に延びている。
【００４４】
襟部５は、図４に示すように、帯状の生地で構成される一対の襟形成部５０を有する。一対の襟形成部５０は、襟部５の幅方向における一端部が襟用縫代部に縫い合わされると共に、襟部５の幅方向における他端部が互いに縫い合わされている。
【００４５】
より具体的に説明する。一対の襟形成部５０は、長手方向における全長に亘って襟用縫代部に縫い合わされる基端側縫代部５００と、襟部５の幅方向において該基端側縫代部５００に連続する襟本体部５０１と、襟部５の幅方向において該襟本体部５０１に連続する先端側縫代部５０２とを有する。
【００４６】
一対の基端側縫代部５００は、内側に折り返された状態で襟用縫代部に縫い合わされている。なお、上述のように、襟用縫代部の一部を構成する上側縫代部３０１には、接合材８が接合されているため、基端側縫代部５００は、上側縫代部３０１及び接合材８に縫い合わされている。
【００４７】
一対の先端側縫代部５０２は、内側に折り返された状態となっており、互いに当接した状態で縫い合わされている。
【００４８】
袖部６は、筒状に形成されており、前身頃２と、後身頃３と、肩当部４とのそれぞれに縫い合わされている。
【００４９】
本実施形態に係るポケット部７は、図３に示すように、前記身幅方向における中央部に配置されているセンターポケット７０と、前記身幅方向でセンターポケット７０と隣り合う位置に配置されている一対のサイドポケット７１とを有する。
【００５０】

センターポケット７０は、後身頃３の下側縫代部３０２の中央部に縫い合わされるセンターベース部７００と、該センターベース部７００を覆うセンターカバー部７０１とを有する。

【００５１】

センターカバー部７０１は、センターベース部７００の前記着丈方向での下端部及びセンターベース部７００の前記身幅方向での側端部のそれぞれに縫い合わされるカバー本体部７０１ａと、該カバー本体部７０１ａの前記着丈方向での上端部に設けられるセンターリブ７０１ｂとを有する。

【００５２】

センターリブ７０１ｂは、センターベース部７００の上端（中央縫目線Ｌ３０）よりも下方側に配置されている。

【００５３】

本実施形態に係るセンターリブ７０１ｂは、図５に示すように、カバー本体部７０１ａの上端に延設され且つセンターベース部７００側に折り曲げられる折曲部７０１ｃと、折曲部７０１ｃから延出し、且つセンターベース部７００とカバー本体部７０１ａとの間に配置されるリブ本体７０１ｄとを有する。

【００５４】

なお、リブ本体７０１ｄには、弾性を有する芯材Ｃが縫い合わされている。本実施形態では、リブ本体７０１ｄが芯材Ｃの外面に沿わされた状態で折り返されるとともに、該リブ本体７０１ｄと該芯材Ｃとが互いに縫い合わされている。

【００５５】

サイドポケット７１は、後身頃３の下側縫代部３０２の側端部に縫い合わされるサイドベース部７１０と、該サイドベース部７１０を覆うサイドカバー部７１１とを有する。

【００５６】

サイドカバー部７１１は、サイドベース部７１０の前記着丈方向での下端部及びサイドベース部７１０の前記身幅方向での側端部のそれぞれに縫い合わされるカバー本体部７１１ａと、該カバー本体部７１１ａの前記着丈方向での上端部に設けられるサイドリブ７１１ｂとを有する。

【００５７】

サイドリブ７１１ｂは、前記着丈方向において、センターリブ７０１ｂよりも上方側に配置されている。また、サイドリブ７１１ｂは、前記着丈方向において、側方縫目線Ｌ３１の下方側に配置されている。

【００５８】

また、サイドリブ７１１ｂは、側方縫目線Ｌ３１に対応して傾斜するように構成されている。すなわち、サイドリブ７１１ｂは、センターポケット７０側から前記身幅方向外方側になるにつれて下方側に向かうように傾斜している。

【００５９】

本実施形態に係るサイドリブ７１１ｂは、カバー本体部７１１ａの上端に延設され且つサイドベース部７１０側に折り曲げられる折曲部と、折曲部から延出し、且つサイドベース部７１０とカバー本体部７１１ａとの間に配置されるリブ本体とを有する。なお、本実施形態において、サイドリブ７１１ｂの折曲部、リブ本体、後述する芯材には便宜上採番しない。

【００６０】

リブ本体には、弾性を有する芯材が縫い合わされている。本実施形態では、リブ本体が芯材の外面に沿わされた状態で折り返されるとともに、該リブ本体と該芯材とが互いに縫い合わされている。

【００６１】

さらに、ポケット部７の下端には、裾形成部９が縫い合わされている。裾形成部９は、センターポケット７０、サイドポケット７１のそれぞれの下端に縫い合わされており、着用者の腰下に対応させて配置されるように構成されている。

【００６２】
本実施形態に係るサイクルウエア１の構成は、以上の通りである。本実施形態に係るサイクルウエア１によれば、着用者の肩に対応させて配置される肩当部４が前身頃２と後身頃３とに一体的に連続しているため、着用者の肩に対応する部分が平滑になっている。
【００６３】
そのため、自転車に乗って走行する着用者の肩に生じる風の抵抗が抑えられる。特に、図６に示すように、着用者が腰を曲げて上半身を前方に大きく倒した状態で腕を前方（腹側）に出す前傾姿勢で（肩を進行方向前方に向けて）高速走行を行う場合は、着用者の肩に生じる風の抵抗を抑える効果が高まる。
【００６４】
また、サイクルウエア１では、一対の後身頃形成部３０の接合代部３００が前記着丈方向に沿って延びるとともに、該接合代部３００のそれぞれに跨るようにして接合材８が接合されているため、該接合材８によって接合代部３００が補強されている。これにより、後身頃３では、接合代部３００の剛性が他の部分の剛性よりも高められた状態になっている。
【００６５】
また、本実施形態に係るサイクルウエア１では、接合材８が前記着丈方向における接合代部３００の全長に亘って接合されているため、前記身幅方向における後身頃３の中央部が前記着丈方向の全長に亘って補強された状態になっている。
【００６６】
従って、サイクルウエア１では、図７に示すように、ポケット部７に収容された着用者の所持品の重みによる後身頃３の前記着丈方向での伸長が抑えられるため、着用者が体を引っ張られていると感じ難くなる。
【００６７】
さらに、サイクルウエア１では、接合材８が後身頃３の上端部（上側縫代部３０１）及び下端部（下側縫代部３０２）にも接合されているため、該接合材８の上端部が上側縫代部３０１とともに襟部５に縫い合わされており、接合材８の下端部が下側縫代部３０２とともにポケット部７（センターポケット７０）に縫い合わされている。
【００６８】
これにより、サイクルウエア１では、着丈方向における後身頃３の両端部（上端部と下端部）の剛性が着丈方向における中央部の剛性よりも高まるため、ポケット部７に収容された着用者の所持品の重みによる後身頃３全体の伸長を抑えつつ、着用者の腰を曲げて上半身を前方に大きく倒す動作を妨げ難くすることができる。
【００６９】
さらに、サイクルウエア１では、前身頃２と後身頃３との縫目である脇下縫合線Ｌ１の先端側が脇下縫合線Ｌ１の基端側よりも着用者の背面側に配置される。このように、サイクルウエア１では、脇下縫合線Ｌ１が風の当たり難い位置に配置されるため、自転車での走行中に風の抵抗が生じ難くなる。
【００７０】
以上のように、本実施形態に係るサイクルウエア１は、走行中の風の抵抗を抑え、さらに、着心地を良くすることができる。
【００７１】
なお、本発明のサイクルウエアは、上記一実施形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲において種々変更を行うことは勿論である。
【００７２】
上記実施形態において、前身頃２は、前記身幅方向で分割されていたが、この構成に限定されない。すなわち、前身頃２は、一対の前身頃形成部２０が協同して着用者の前面（腹や胸等）を覆うように構成されていたが、着用者の前面（腹や胸等）を一括して覆うように構成されていてもよい。
【００７３】

上記実施形態において、接合材８は、接合代部３００の全長に亘って接合されていたが、この構成に限定されない。例えば、接合材８は、接合代部３００の一部に対して接合されていてもよい。

【００７４】

上記実施形態において、接合材８は、上側縫代部３０１や、下側縫代部３０２にも接合されていたが、この構成に限定されない。例えば、接合材８は、接合代部３００のうちの外部に露出する部分のみに接合されていてもよい。

【００７５】

上記実施形態では、ロードバイクで高速走行を行う場合を一例に挙げて走行中の風の抵抗を抑える効果が得られることについての説明を行ったが、クロスバイクや、シティサイクル等に乗る場合においても、走行中の風の抵抗を抑える効果を得ることができる。

【００７６】

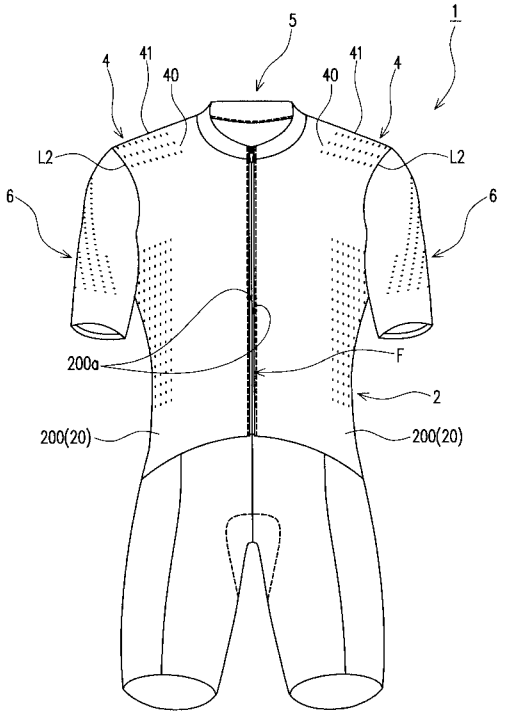
上記実施形態では、ポケット部７の下端部に裾形成部９が縫い合わされていたが、ポケット部７の下端部が着用者の腰下を締め付ける構成となっている場合は、図７に示すように、ポケット部７の下端部が裾に対応する位置に配置されるように構成されていてもよい。

【符号の説明】

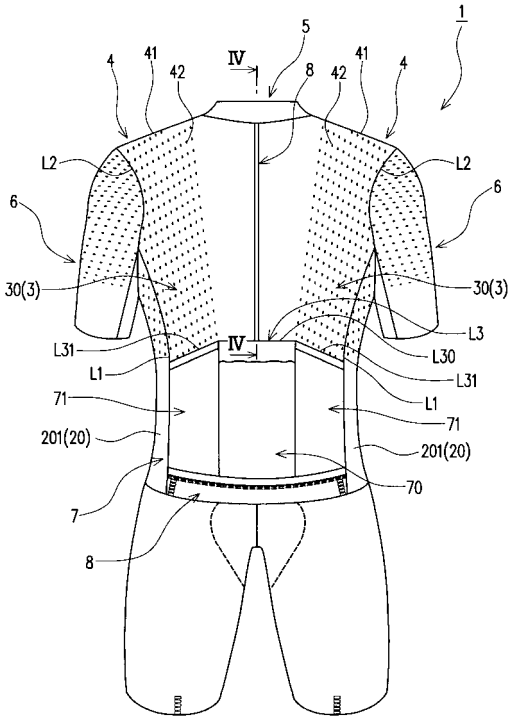
【００７７】

１…サイクルウエア、２…前身頃、３…後身頃、４…肩当部、５…襟部、６…袖部、７…ポケット部、８…接合材、９…裾形成部、２０…前身頃形成部、３０…後身頃形成部、４０…前側肩当部、４１…肩当頂部、４２…後側肩当部、５０…襟形成部、７０…センターポケット、７１…サイドポケット、２００…前面胴当部、２００ａ…開閉端、２０１…側方胴当部、３００…接合代部、３０１…上側縫代部、３０２…下側縫代部、５００…基端側縫代部、５０１…襟本体部、５０２…先端側縫代部、７００…センターベース部、７０１…センターカバー部、７０１ａ…カバー本体部、７０１ｂ…センターリブ、７０１ｃ…折曲部、７０１ｄ…リブ本体、７１０…サイドベース部、７１１…サイドカバー部、７１１ａ…カバー本体部、７１１ｂ…サイドリブ、Ｃ…芯材、Ｆ…スライドファスナー、Ｌ１…脇下縫合線、Ｌ２…袖部縫合線、Ｌ３…背面縫合線、Ｌ３０…中央縫目線、Ｌ３１…側方縫目線

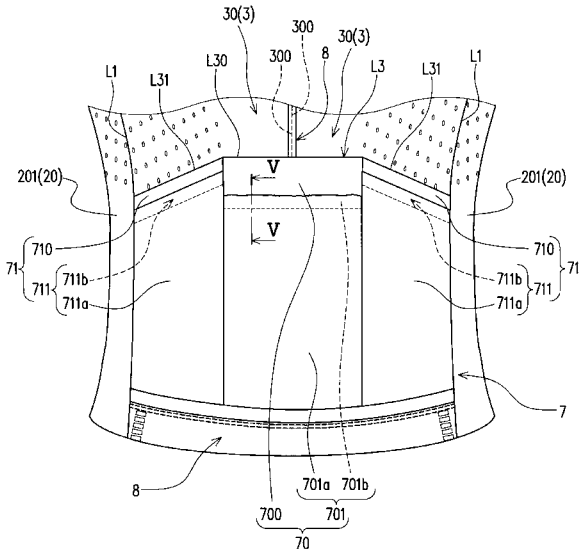
【図１】


1
5
4
41
40
40
41
4
L2
L2
6
6
200a
F
2
200(20)
200(20)

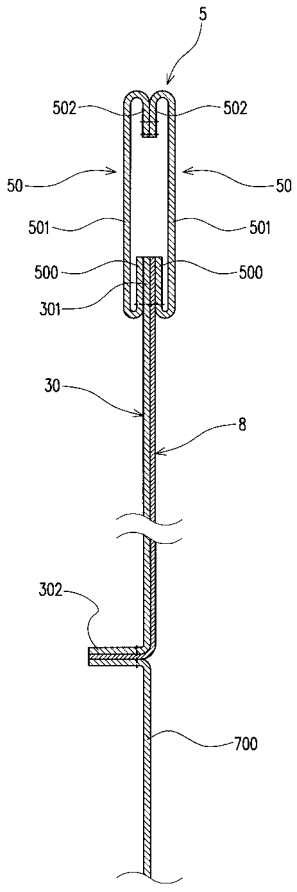
【図２】


1
5
4
41
42
IV
8
42
41
4
L2
L2
6
6
30(3)
30(3)
L3
IV
L31
L30
L1
L31
71
L1
71
201(20)
201(20)
70
7
8

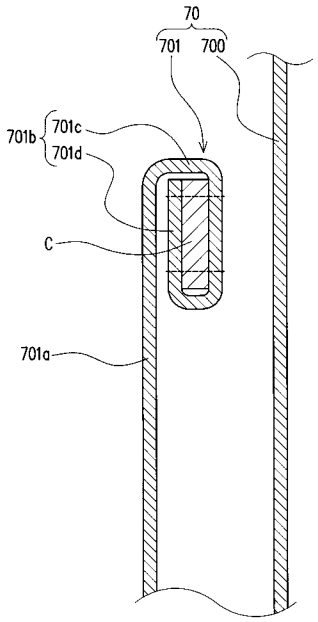
【図３】


30(3)
300
30(3)
L1
L31
L30
300
8
L3
L31
L1
V
V
201(20)
201(20)
710
710
71
711
711b
711a
711b
711
711a
71
7
8
701a
701b
700
701
70

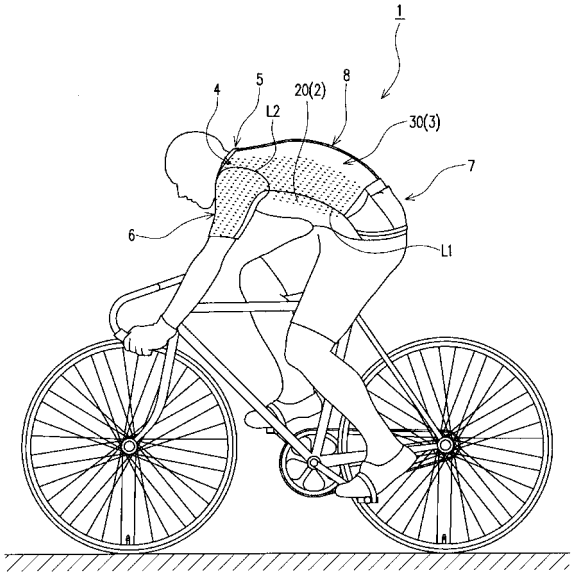
【図４】


5
502
502
50
50
501
501
500
500
301
30
8
302
700

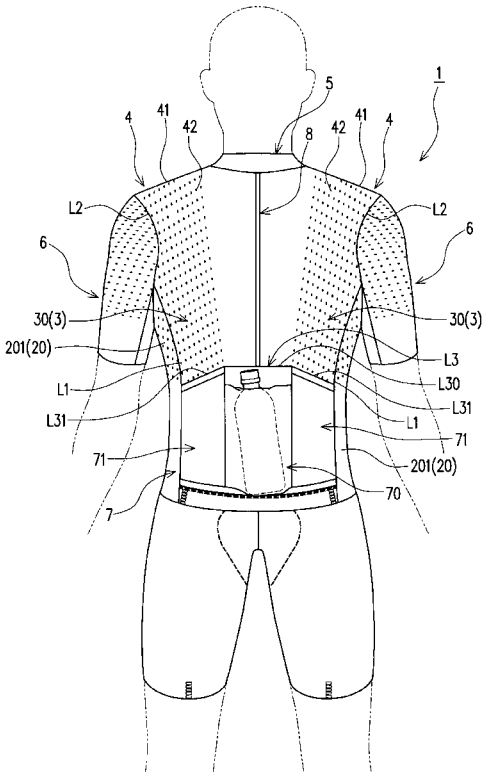
【図５】


70
701
700
701b
701c
701d
C
701a

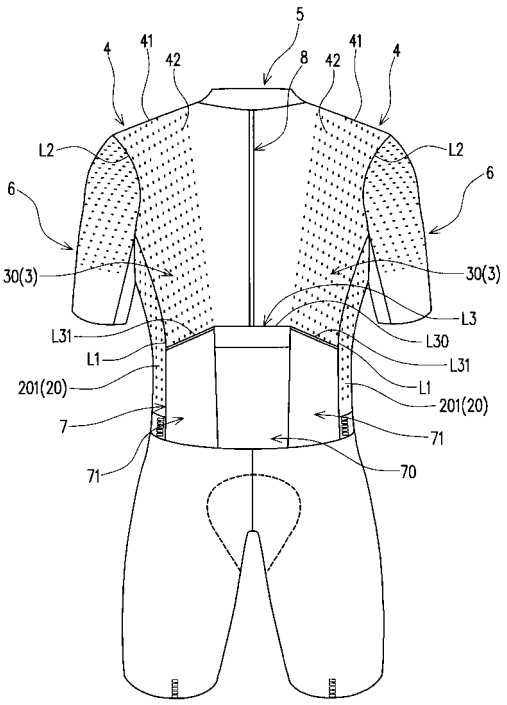
【図６】


1
4
5
L2
20(2)
8
30(3)
7
6
L1

【図７】


1
5
4
41
42
8
42
41
4
L2
L2
6
6
30(3)
30(3)
201(20)
L3
L1
L30
L31
L31
L1
71
71
201(20)
70
7

【図８】


5
4
41
42
8
42
41
4
L2
L2
6
6
30(3)
30(3)
L3
L31
L30
L1
L31
L1
201(20)
201(20)
7
71
71
70

フロントページの続き

(72)発明者　味戸　務
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地　株式会社シマノ内

Ｆターム(参考) 3B011 AA01 AB16 AC11 AC21
3B035 AA17 AB09 AC15